

区域設定のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
1区域	<ul style="list-style-type: none"> ●柔軟なサービス提供が可能で、利用者の選択範囲が広がる。 ●一時的な需要の増減に対して、広域で調整しやすい。(弾力的な対応が可能) ●事業計画における需要量見込みの推計が行いやすい。 ●施設運営は、広範囲の児童を柔軟に受け入れられるので安定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区域が広い場合、容易な移動が困難な場合がある。 ●自宅近くに施設が整備されていないなど、利用者の利便性に欠ける場合がある。 ●区域にバランスよく施設や事業が配置されない場合がある。
2区域以上	<ul style="list-style-type: none"> ●狭い区域内に必要な施設や事業が整備され、利用者の利便性が高まる。 ●必要な施設や事業が自宅近くにあるなど容易に移動でき、利用しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●区域内で発生した供給不足に対しては、当該区域内において供給を整備する必要があり、施設や事業の重複など効率的な運営が難しい(多額の経費がかかる)。 ●区域内で施設整備や事業提供が行われていない場合、利用者の選択範囲が狭くなる。 ●仮に居住地が駅から遠い場合、居住地の有する区域以外でのニーズ(駅近など)を反映しにくい。 ●事業計画における需要量の見込みの推計が1区域に比べて困難である。 ●個々の区域で急速な需給の増減が生じた場合、区域内では対応できない場合がある。